

(別紙様式1)

令和8年度 児童生徒体力づくり推進計画書(小学校用)

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 越前町立朝日小学校

体育の学習や活動を楽しみ、 進んで運動に取り組もうとする児童の育成

<本校の体力向上の取組みについて>

- 令和7年度体力テストの結果では、50m走が全国や福井県の平均値より低い結果となっていた。走力アップのために、「速く走るための6つの法則」(荒川優)にあるスキルトレーニングやフットワーク等を授業で行う。(児童の実態に応じて、柔軟に内容を変える。)
- 年間を通して、体育の授業で時間走を定期的に行う。
 - ・時間は各学年の発達段階に応じたものにする。
 - ・マラソン大会などの前は、強化期間として頻度を増やして行う。
- 体育委員会で、児童が楽しみながら体を動かす機会を確保できるような企画を考える。

<児童の運動習慣の育成について>

- 児童が「できた」「わかる」ということを実感できるように、児童の実態に応じた場づくりや教材・教具、学習カード、学習形態等の工夫・開発、ICT活用に努める。
- 委員会活動と連携し、運動習慣を育成させる取組みについて子どもたちが考えたことを積極的に取り組んでいく。
- 休み時間では、ボール遊び(ドッジボール、サッカー、キャッチボール等)や竹馬、一輪車、フラフープ、フリスビーなど、様々な遊びができる環境を設定する。
- はぴりゅうスポーツ広場を積極的に活用していく。
 - ・体育前のアップや体づくり運動などで取り入れる。
 - ・縦割り活動で取り入れる。(高学年が低学年に教えるなど)→異学年交流
 - ・宿題で取り入れる。(定期的に)

<その他>

- 休み時間では、鉄棒やなわとびのジャンピングボードを常時設置したり、竹馬や一輪車などを使えるようにしたりして、いつでも運動に取り組める環境を整備する。
- 長期休暇には、保護者とメディアルールについて話し合い、チェックシートを用いて自分自身の生活を振り返る。
- 体育授業や体育大会などで異学年交流を行い、ピアサポートの側面も意識して実施する。
- 「体育的行事」(体育大会等)において、準備から本番まで、児童が主体的に取り組めるようしかけを行っていく。

(別紙様式1)

令和8年度 児童生徒体力づくり推進計画書(小学校用)

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 越前町立系生小学校

健康と体力の向上を目指し、チャレンジできる子

<本校の体力向上の取組みについて>

- ・全校で体育ファイルを作成し、学習カードをつづり、自分の成長が見えるようにする。
- ・業間体育では、週2回5分間走やなわとびを行い、持久力の向上を図る。また、冬季の業間体育では、なわとび大会と関連させ、縦割り班ごとに大なわ跳びの回数のめあてを決める。目標に向かって協力しながら運動に取り組む楽しさが実感できるようにする。

<児童の運動習慣の育成について>

- ・体育の授業では領域や内容に応じて、めあてを全体に提示したり個人で考えさせたりし、その達成に向かって運動することで、意欲の向上を図り、達成感をもたせる。
- ・雨天時の業間体育で音楽に合わせてダンスやストレッチに取り組み、楽しみながら柔軟性や巧緻性などの向上を図る。
- ・体育委員会が、全校で運動に慣れ親しむことができるような企画を実施する。異学年の交流を通して、学校全体で楽しみながら運動技能や体力の向上を図っていく。
- ・はぴりゅうスポーツ広場を活用して、業間体育や体育の活動の記録を行う。また、放課後の運動時間が増えるよう、家庭での活用も促す。
- ・大休みや昼休みの自由な時間には、外や体育館での自由遊びを推奨する。

<その他>

- ・体育授業担当者が授業内容の共有を行う。系統的・段階的に上の学年につながるような授業づくりを進め、確かな知識と技能の定着を図る。
- ・体育大会では、子どもたちが考えた競技を実施する。学校、家庭、地域が一体となって取り組み、運動する楽しさを共有できるようなものにする。
- ・外部団体を講師として招いての水泳教室など、専門的な知識や技能に触れることができる出前授業の機会を設定する。プロの実技や指導に触れることで、運動に対する興味や関心を高め、一緒に活動することで、知識と技能の習得につなげていく。
- ・担任と養護教諭が連携し、児童の実態に合わせた保健の学習指導を行う。
- ・体育的行事の前や長期休業期間に健康に関するチェックカレンダーに取り組む。各家庭で設定した「わが家のメディアルール」を守ることに力を入れていく。

(別紙様式1)

令和8年度 児童生徒体力づくり推進計画書(小学校用)

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 越前町立宮崎小学校

自分の健康や体力向上に向けて主体的に取り組む児童の育成

<本校の体力向上の取組みについて>

○授業における準備運動の工夫

→体育授業における準備運動では、従来型の号令をかけた運動に加え、音楽に合わせたリズム運動や、仲間と関わるペア運動を取り入れることで、楽しみながら体を動かすことから始める。また、その中で昨年度の本校の体力テストで全国平均を下回っていた「筋持久力」や「敏捷性」を向上させる要素の運動を行い、全校平均並かそれ以上を目指したい。

○持久走大会やなわとび大会に向けた取組み

→1000m走(秋)となわとび大会(冬)の期間には、委員会の児童が主催する形で練習期間を設ける。ただ走ったり跳んだりするだけでなく、その取組みを可視化できたり、自分の伸びを実感できたりする工夫を、児童の意見をもとに取り入れていく。

<児童の運動習慣の育成について>

○「はぴりゅうスポーツ広場」の活用

→授業のウォーミングアップや朝学習、長期休業中の自主学習などで「はぴりゅうスポーツ広場」の活用を進めていく。進んで取り組んでいる児童を定期的に周知することで、相乗効果を高めていく。

○運動に親しむ場の設定

→年間を通して休み時間に運動に取り組む場の設定を行う。屋外では、竹馬や一輪車の常設に加え、外で利用できるボール等の設置を行う。屋内では、体育館の空きスペースを利用した鉄棒や卓球台の常設を行う。天候や時期に左右されることなく、児童が常に多様な運動に取り組むことができる環境を整備する。

<その他>

○年3回の「ハッピー週間」

→学期に1回ずつ、自分の健康的な生活習慣を見直す「ハッピー週間」を行う。早寝早起き、朝ご飯、歯磨き、メディアバランスなど、複数の項目を設けて取り組む。特に、「メディアバランス」の項目は、事前に計画を立て、保護者の同意のもとに進めていくことで、家庭を巻き込んだ取組みに繋げていく。

令和8年度 児童生徒体力づくり推進計画書
～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 越前町立越前小学校

<本校の体力向上の取組みについて>

- ・体育の授業にめあてをもって取り組ませ、単元を通して自分自身の成長を感じることができるように、がんばりカードを活用している。(マラソン大会において、なわとび、鉄棒、マット運動など)
- ・今年度の体力テストの結果を踏まえ、来年度以降の取組みについて精査する。

<児童の運動習慣の育成について>

- ・1回15分の業間体育を週2回設けている。春から秋のマラソン大会までは持久走、マラソン大会後から冬季にはなわとびを行う。がんばりカードを取り入れ、めあてをもって取り組めるよう指導法を工夫するなど、児童が意欲的に取り組めるようにしている。
- ・縦割り班を活用し、仲良し遊びを学期に1回程度設け、異学年による外遊び、室内遊びを行うことで、運動好きな児童の育成に取り組む。

<その他>

- ・保健の学習では、養護教諭による生活習慣や歯と口の健康に関する指導などを学期ごとに実施する。
- ・小学校6年間を通じた体育での学習を記録できるように、各学年に卒業まで持ち上がる「体育個人ファイル」を導入し、振り返り等を保管できるようにしている。

(別紙様式1)

令和8年度 児童生徒体力づくり推進計画書(小学校用)

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 越前町立織田小学校

伸ばそう!おたっ子の力

- ①体力 授業や業間運動で体力の向上を図る。
- ②心力 体育的行事を中心に、忍耐力や向上心を育む。
- ③協力 授業でお互いに支え合ったり、縦割り班で協力したりする中で助け合う力を養う。

<本校の体力向上の取組みについて>

- 業間運動の内容を見直し、児童が企画した内容を実施する。
本校児童の持久走への意欲が低いため、業間マラソンを廃止した。その代わりとして、体育委員会が企画した活動を実施し、体力の向上につなげていく。
- 授業で運動量を確保する。
授業時間を使って友達と関わるような活動を取り入れつつ、運動量の確保に努める。(鬼ごっこやリレー等)

<児童の運動習慣の育成について>

- OTAタイム(昼休み)の取組
時期を設定して体育委員が企画し、全校での鬼ごっこやリレー、縦割り班対抗のイベントを実施する等、縦割り班のつながりを深めながら体力の向上を図る。

<その他>

- はぴりゅうスポーツ広場の普及に努める。
休日でも、家族で運動に親しむことができるようにする。
- 体育大会での親子種目
低・中・高学年ごとに親子競技を実施する。競技内容を児童が考え、体育大会本番での競技準備も児童が行う。児童同士の協力や親子での協力が求められる活動とする。
- 衛生的な生活を指導する。
衛生面への配慮や病気予防のために、換気や手洗いの効果を示すとともに、手洗いやうがいの仕方の指導を徹底し病気の感染予防に努める。